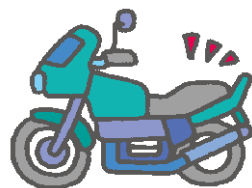


プロローグでは、生徒用教材『きみはリッチ？』（以下『教材』）の内容の概略を知ってもらうため、イントロダクションとして三つの設問を設けました。今の若い世代の人たちに金銭感覚や消費行動などを再確認してもらう意味で、今の自分を見つめ直す機会とするよう指導してほしいと思います。

以下では、それぞれの設問について解説しておきます。

設問1 どうしてもバイクが欲しい……

市場には商品があふれ、さらに商品の魅力を強調するCMの洪水のなか、若い世代の人たちが欲求をできる限り抑えて必要最小限だけの消費に努めようとしても、なかなか思うようにはいかないでしょう。例えば、バイクが欲しい人もいるはずですが、まんして目標額が貯まるまで購入をあきらめることができる人もいれば、やはり今を楽しみたいから、借金をしても購入して早く乗りたいと思う人もいるでしょう。



ひとりひとりの生徒自身にぜひ考えさせてください。自分ならきっとこういう行動をとるだろうと考えてみることは、生徒にとって重要です。

『教材』の2ページに、ある独身女性の話を載せておきました。カードで買い物をしてみると、案外抵抗も少なく便利に思えて、その後次々と買い物に走ります。安易な選択や購入態度は、やがて多重債務生活へとつながっていきます。

設問2 スノボーに行くのにお金が足りないんだ……

親しい友達との関係でも、お金のこととなると微妙です。困っている友人や知人のために借金をすることは、めずらしいことではありません。自分が反対の立場だったらと考えたり、お互い様だからとか、案外日本人には同情的な行動をとることがよくみられます。



でも、よく考えてください。一度OKすると、また二度目がきつとあります。しかも、この場合は遊びのためのお金ですね。最後の選択肢に「保証人」があります。『教材』本文18ページに詳しいですが、保証人の責任は重いものです。破産を選ばざるをえない多重債務者の中には、他人の保証人になったばかりに、他人に代わって借金の返済をしなければならない羽目になって、結局自分自身が借金地獄に落ちていったケースも少なくありません。昔から「金銭は親子でも他人」といわれます。お金のことは友達同士でもお互いにクールであるべきで、お金のことで頼らない関係のほうが、より親密にお付き合いできるのではないのでしょうか。

設問3 クレジットカードでキャッシング……

最近の若い人は、簡単な金利計算もできないとよく聞きますので、念のため単純なものを設問としました。

$100,000円 \times (1 + 0.15) = 115,000円$ で、③が正解ですね。

元金×利率×期間＝利息

元金×(1+利率)＝元利合計（返済金）

であることは大切です。理解させておきましょう。

クレジットや消費者ローンを利用している人は、案外、利息について、その額がどれほどかよく理解していないことが多いようです。実際のショッピングクレジットでは年12～15%くらいの手数料、キャッシングでは年15～18%くらいの利息が多いようです（クレジットカードの手数料等については、p.12を参照ください）。

